

# 部落解放の教育

1984.11.15

第174号

発行／大阪市同和教育研究協議会／浪速区久保吉町1-6-12  
 部落解放研究教育センター内  
 ☎561-2407 編集／市川純子  
 印刷／昭和写植印刷㈱ ☎761-2485

「釜ヶ崎」の  
 教育問題特集

## 「釜ヶ崎」の子どもたちは今…

今年3月、新今宮小・中学校が廃校になり、あいりん学園の開設以来22年間の歴史を閉じました。けれどこのことで、「不就学」の子どもがなくなったわけではなく、「釜ヶ崎」の問題が解決したわけでもありません。ぼう大な日雇労働者と、仕事にあふれてアオカンをする人たちへの差別の目ざしが、まわりをとりまいています。差別と偏見の目をたえず再生産しているのが、今の学校教育でしょう。「釜」の子どものパイタリティが、学校へいく中で失われていくとは、あるケースワーカーの人の話です。足元の問題を、みつめ直す意味で、「釜ヶ崎」の特集をくんでみました。



まなざし—1962年あいりん学園開校当時の子どもたち—

「あいりんの教育22年」より

### 第36回 全同教鹿兒島大会(11/23~25)報告一覧

2~3面に学校関係の報告にしぼって要旨をのせました。

分科会	教育テーマ	所属	氏名	分科会	報告テーマ	所属	氏名	
1. 就学前教育	地域・親とともにづくりだす保育を造形一つくってあそぼう	大阪市立長橋地区保育所	山下初代 山口政江	5. 自主活動	ヤマトウ(本土)のウチナンチュ(沖縄県人)として—サンシンを通して育つ子どもたち—	大阪市立北恩加島小学校 菟之釜小学校	仲村昇 松浦倫子	
2. 健康	「自分の声をおぼえときや」—まなぶ君の補聴器と生活のこと—	大阪市立長橋小学校	植西和子	6. 進路保障	進路を共に考える—「障害児」と共に地元高校へ—	大阪市立中島中学校	乾昇二郎 後藤幸雄	
3. 「障害」児教育	「歩きたい」でむつかしいなあ	大阪市立清水小学校	中川安広	7. 生活課題と啓発活動	大阪東淀川区における人権啓発活動の現状 「障害児」の親の組織化について	大阪市東淀川区役所 大阪市加島・三津屋地区回推協	八木宏祐 平田純博	
教育内容	(1) 言語認識	つづりはじめたとも広のこと	大阪市立梅南小学校	吉野美知	8 地域の教育力	(1) 文化の創造と要求活動		
	(2) 社会認識	重たいくらしの向こうには… —授業以前の—	大阪市立鶴見橋中学校	古川正博		(2) 識字運動	「差別をつくり出す文字 解放につながる文字」—解放のオガリ	部落解放浪速地区読み書き教室
	(3) 自然認識	「なんで大和川ききたいんや」 —地域副読本づくりと大和川学習—	矢田同推協 大和川部会	中塚清人		(3) 子ども会活動	「十年そして次の十年」	部落解放平野子ども会
	(4) 芸術認識	「農業おどってたら自然に体がうごいてくるわん」—文化をとりもどす朝鮮の子どもたち—	大阪市立啓発小学校・在日朝鮮人教育委員会	吉野直子				

●はじめに

今年5月13日付の毎日新聞に3人だけの卒業式という見出しで次のような記事が報道されました。

「大阪市内の公立中学校129校で14日、一斉に卒業式が行われ、計38,200人が巣立ったが、西成のあいりん地区の子らのための市立新今宮中では、3人だけで21回目のミニ卒業式。同校はこれで『生徒ゼロ』となり、今月末で閉鎖される。」

この記事の「生徒ゼロ」に注意をひかれました。

●新今宮小・中学校とは…

1961年夏の、あの「釜ヶ崎暴動」後、地区の簡易宿泊所(ドヤ)等に住む約200人の不就学児が発見されました。戸籍や住民登録がないため、教育行政が転入学を認めず、教育権を奪われていたわけです。不就学の子もたちのいわゆる非行防止対策という側面も持ちつつ、1962年2月にあいりん学園(今宮中・萩之茶屋小分校)が西成警察署前のプレハブ校舎で発足しました。その後同年8月民生局所管の「あいりん会館」4・5階を間仕

切りして間借りし、あいりん小・中学校となったわけです。1階には風呂場、散髪室もあり、教師は子どもたちと一緒に入浴したりもしました。

間借りではなく「土と緑」のある学校建設の要求は、独立直後から学校関係者によって提案されていましたが、教育行政は、この当然の要求を認めませんでした。

1969年になって、この要求が大阪市教組のとりあげるところとなり、同時に先駆的にこの問題にとりくんでいた全港湾労組建設支部西成分会との共闘が成立し、部落解放運動の高揚を背景にして運動は大きく前進しました。各党市議員・日赤奉仕団・社会福祉協議会など地元の人々も積極的に動きました。1971年3月までに4797人・250校もの署名があつめられました。

こうして、4階建鉄筋コンクリート校舎・講堂兼体育館・屋上プール・300坪の校庭つきで総工費2億6千万円の建設計画が獲得されました。

このようにして、1973年1月に新今宮小・中学校は独立

# 新今宮小・中学校の

大阪市教組南大阪支部 釜ヶ崎問題小委員会

校舎で新発足することになりました。そこには畳一枚のドヤでは遊べない子どものためのプレイルームがあり、食堂やシャワー室もつくられました。教育委員会を動かしたのは、あくまでも子どもたちの教育権を保障しようとした地元住民と労働者の一致した力でした。

●廃校になっても

前記した新聞報道を簡単に読みすごしてしまうと、何かしら釜ヶ崎の子どもたちの問題もこれで解決したんだという誤まった見解を持ってしまう。廃校の後、これから不就学児が生れてこないという保証は一つもありませんし、釜ヶ崎の子どもたちの問題が釜ヶ崎の解放なくして解決するはずがありません。釜ヶ崎の子どもたちの問題は、おとなの生活と密接に関わっています。

釜ヶ崎の労働者＝日雇労働の労働条件は、その日の朝就労し現場で仕事を始めるまでわかりません。残業になるか徹夜になるか朝の就労の場でしかわからないわけです。子どもの生活を優先させると就労の条件は著しく悪くなります。それは、また親子に対して経済的なしんどさを強いることにもつながります。逆に労働条件を優先させると、子どもの方にしわよせが生じてきます。このしわよせは、子どもの長欠や不就学につながってきます。

長欠→不就学→非行→犯罪対策としての就学とは、全く別の問題があるわけです。

親の日雇労働からくる生活の不安定さは即、子どもの生活の不安定となり、問題は未解決です。しかしながら日本資本主義は、自由に使い捨てできる釜ヶ崎の労働者、日雇

## 全 同 教 大 会 報 告 要 旨

健康

「自分の声をおぼえときや」  
長橋小 植西和子

難聴の学くんの母と話をするようになって、そのおもいにふれ、補聴器しているから…と安心して自分を恥じる。「今のうちに自分の声の大ききおぼえときや」という同じ難聴のOさん。やはり難聴の父をもっている報告者の生活と、学くんのことを重ね、まるごとのつきあいを考える。

「障害児」教育

「歩きたい」でもつがしいなあ  
清水小 中川安広

下半身の不自由なYくん。排泄の感覚がないからオムツをつけている。このYくんのウンコの話、プールの話、友達の話、運動会の話。歩きたがり、「健常児」に近づこうとするYくんにこだわる。それが「障害者」との連帯にくもりをもたらずのではないかと。生き方にこだわる教師の報告。

言語認識

つづりはじめたとも広のこと  
梅南小 吉野美知

かくことが嫌だったとも広が書きはじめた。離婚にいたる両親との生活の修羅場を誰にも話さず、むしろはしゃいでいたとも広。父にも母にも味方しないことで、せいーばい自分を守っていた。綴りはじめたとも広と、ことばがふれ合ってきた仲間と…少しずつ、生活がみえはじめる。

社会認識

重たいくらしのむこうには…  
鶴見橋中 古川正博

34名の学級生徒のうち、半数が両親または片親がいない。そこには確実に部落差別、朝鮮人差別の歴史と現実がある。4月転入してきたY子を中心、すさまじいしんどい暮らしを一ぱい抱えた子ども達との交流を通して、走りまわり、しゃべりまくり、途方にくれる社会科教師の報告。

# 跡地利用を考える

竹之内 善久 (住吉川小学校)

労働者を必要としボロ雑巾のように使いきり、切り捨てているのです。

現在、釜ヶ崎地区 (0.62km<sup>2</sup>) に居住する人々は41,000人とされています。そのうち日雇労働者は、約2万人と推定されています。この地域での文化施設・社会教育施設の立ち遅れは著しいものがあります。囲碁・将棋を楽しむ部屋がわずか一ヵ所あるのみです。天王寺図書館の利用率はこの地域の人々が一番多いとされています。また、居住する人々のいこいの場となる公園の実態をあげますと目をおおいたくなる数字が浮かびます。釜ヶ崎における一人あたりの公園面積は、0.20m<sup>2</sup>で大阪市平均1.01m<sup>2</sup>の五分の一です。大阪市当局は、釜ヶ崎に住む人間を大阪市民の五分の一としか認めていないということです。しかも4つある公園の

うちの3ヶ所は、3mもあるフェンスで囲われ施錠されています。フェンスのない唯一の公園は賭博行為で占領されていて、子どもが遊べる状態ではありません。子どもも大



廃校になった新今宮小・中学校

人も共にいこえる公園が必要です。そういう施設が必要で

## ●新しい教育課題—草の根教育運動として

新今宮小・中学校が廃校に

### (学校教育関係のみ)

なった背景の一つとして、釜ヶ崎の労働者の絶対数の減少、釜ヶ崎地区の広域周辺化があげられます。また、一人ひとりの子どもを大切にすると共に、釜ヶ崎の子どもたちを周りの子どもたちと切り離して教育することがよいのかどうかという反省も生まれ、戸籍や住民登録のない釜ヶ崎の子どもたちに積極的な行政施

策がとられるようになりました。

こうして新今宮小・中学校の子ども数は急速に減少したのです。しかし、釜ヶ崎の状態、子どもたちをとりまく

環境は何ら変化していません。

今まで新今宮小・中学校が担ってきた釜ヶ崎の子どもたちの生活と教育の場を保障するという役割を周辺の学校が担っていくという新たな教育課題が生じたと言えるでしょう。家庭崩壊で行き場を失なった子どもたち、卒業・就職しても西成・釜ヶ崎というレッテルを貼られ、うちひがれる子どもたち等々と教育以前の問題が山積しています。つい最近も、釜ヶ崎の近くの公園でテントで生活している父子が発見され就学のとりくみが行われました。このようにあらたな不就学児が出てきたり、長欠児もあとを断っていません。私達は、新今宮小・中学校の跡地の有効な利用として、子どもたちのための教育・文化・スポーツの場などに利用すること、地域住民・労働者のために役立つ文化施設として活用されるようにすること、この二つの点を強く要求し、地域の父母労働者、関係諸団体と共に協議し、とりくみを進めようとしているのです。

#### 自然認識

なんで大和川きたないんや  
矢田同推協・矢田小 中塚清人

汚染ワースト2の大和川。流域に被差別部落が連なり水害の被害も大きい。「わたしたちと大和川」等の教材を作成し、自然公園づくりの住民運動とも結合して授業計画をたててきた。子どもたちの生活と大和川との関係、川の歴史差別との関係等、川への認識を深めることで生活を考える。

#### 芸術認識

文化をとりもどす朝鮮の子どもたち  
啓発小 吉野直子

しぶしぶ参加した交流会で初めてきれいなチマチョゴリで農楽を踊ったT。かくすべき朝鮮が、いつの間にかわくわくするものになっていった。「自然にからだか動いてくるねん」という子どもの言葉に、民族の文化にふれた喜びが凝縮されている。部落の子ども達との交流も含め報告する。

#### 自主活動

ヤマトっのウチナンチュとして  
北恩加島小 仲村 昇  
秋の茶屋小 松浦倫子

大正区平尾に沖繩子ども会ができて6年目。在阪の沖繩の子ども達が自立するウチナンチュとして育ち、親の心とつながっていくことをめざして、サンシン (沖繩三味線) の練習をしてきた。子ども達のサンシンで、家の中に沖繩が甦った。……がんばる沖繩の親と子の姿を報告する。

#### 進路保障

進路を共に考える  
中島中 乾昇二郎・後藤幸雄

1976年、中島中養護学級卒業生が、地元の柴高を不合格になったところから「準高生」のとりくみがはじまった。その後の運動の経過の中で、高校との交流が深まり、全日柴高で学ぶようになった。現在準高を終えた後の生活・労働の問題、地域での仲間の広がりがりなど、経過と課題の報告。

### 仕事の誇りとやさしさ

今年、今宮中学と新今宮中学を卒業した二人が、朝四時半に起き、愛隣職安センターより日雇いの仕事に就き、「めっちゃ、しんどかった」と誇らしげに帰って来た。「土方のおっさん、総理大臣より偉いで。あんなしんどい事をやるとるんやな。

酒飲むのもわかるわ」と二言目。「釜」の中では、昼間円陣を組んで道端や公園

に坐り込み、酒を飲んでいる姿や、ごろ寝している姿しか見えないが、それは一面であって、同じ人が、バリバリ仕事をする偉い人なのだ驚いている。

また、今年二月より八月迄、六ヵ月間も天王寺公園で父子で野宿を強いられていたM君(小3)は、大きなリヤカーを夜中中引張り商店街を歩き回って、ダンボールや廃品を回集する父親の仕事を毎日手伝っていた。時々「こんな物があつたよ。他にまた良い物があつたら持って来たげるね」と、こどもの里に衣服や文房具を持って来る。父親には、この仕事しか出来なくても、子供はそれを一つの職業として捉え、素直に受けとめ喜んで手伝い、誇りを持って話してくれる。私は日雇いの廃品回収も、一つの職業として捉えている偏見のない子供の心に感動した。そして、日雇労働に対する偏見・差別が私の中にも根深くある事を見て恥

ずかしかつた。今の日本では、人間の価値や評価は、どんな企業に属しているかという外面的なことできめられている。だから、よい(?)評価を得る為には大企業に就職せねばならず、そのために、よい高校、大学へという受験競争が学校の主流となった。日雇いの仕事は、どの企業にも属さ

のおばさんが死んだらあんな等のせいやらね」と叫んだ。やっと警察官も動き出した。

釜ヶ崎には、ややこしい家族関係の中で生れ、傷つき悩み育つ子が多い。人の弱さも感じており、人間のいろいろな姿、酔っぱらっている姿、けんかをする姿、人を助けている姿、おこっている姿等を知

炭鉱閉鎖で職を失った人々が釜ヶ崎に来る。また、他の職についていた人々も、人間らしさ故に社会の中で受け入れられず、落胆挫折して来る。多くは、ここでしか生きる場を求める事が出来ない。釜ヶ崎の問題が差別する側にあり、また釜ヶ崎に生きる人々の心の傷にあるなら、釜ヶ崎の解放に向って、私達は今何が出来るのだろうか。それは、街をきれいにするとか、ドヤを新しくするとか言う類のものではない。

まず第一に、自己の中にあ

# 「釜ヶ崎」に育つ子どもを通して



“こどもの里” 指導員 中島 共子

ず、実際その労働力が日本の社会・経済上必要とされ、重要なものであっても、その評価は無に等しい。

「今日帰り、電車に乗って恥ずかしかつたのう」と話す若者にその理由を尋ねると、「じろじろ、皆が見よる」という返事。土方の仕事をして服が汚れるのは当たり前なのに、汚い人に近づくな、日雇労働者だから恐いし、価値の低い人間だという偏見が、じろじろ見させているのだ。

### 裸の人間の姿をみて育つ子ども

母親蒸発に父子して心痛め病身でありながら酒に溺れる今は亡き父と生活していた、小学5年のHちゃんが、道端で苦しんでしゃがんでいるおばさんを見つけた。彼女は、ためらわずに声をかけた。

「おばさん、大丈夫。すぐに救急車を呼んであげるわね」泣きながら警察官に頼んだが、「そんなの放っとったらいよいよ」という冷たい言葉に、「あ



「こどもの里」の運動会

っている。人のいたみを自分のこととしてとらえ、感じる心がある。だから無条件に優しい。だからまた、激しい。裸の人間を見る事が出来る。しかし、他の人は、一面しか見る機会がなく、差別と偏見の目でみてしまう。問題は、回りの人間の日雇労働者に対する見方、価値観にある。「他人の価値を引き下げる事によって、自分の価値を立証しようとする心」即ち優越感、裏返せば、人を差別している大人自身の現実の姿が問題なのだ。釜ヶ崎の問題は実は差別する側の問題なのである。

### 「釜」の解放に向けて

る偏見の問題と対決し、取り除く努力をする事である。

第二に、「土方のおっさん総理大臣より偉いで」と感じている子供達に「りっぱなドカチン」「設計図も読める様なりっぱなドカチン」になれるよう教育をする事である。

第三に、釜ヶ崎でしか生きられない、しゃないからドカチンをしていると思っているおじさん達に、もっと子供達の姿を知らせる事である。

この子供と大人の関係が釜ヶ崎解放への大きな鍵になると思う。

「こどもの里」は釜ヶ崎にある学童保育の場です。